



蓮沼門三

ゆかりの地



山都町相川字上藤沢の生誕地「愛汗苑」

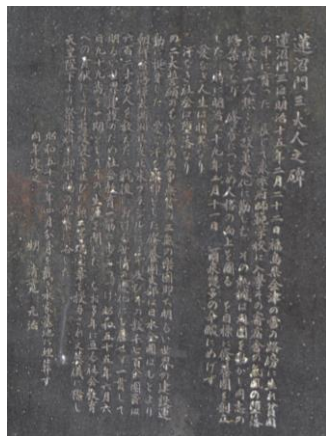


山都町相川の生家、高橋岩四郎宅

山都町相川、生誕地にある蓮沼門三の銅像



門像が通った道脇にある
岩月町根小屋の地藏堂



岩月町大沢の蓮沼家墓
「蓮沼門三大人之碑」



門三と母が通った岩月町大沢、白山神社



岩月町大沢 蓮沼門三宅
母が再婚した蓮沼市太郎宅

戦国時代、伊達政宗が
天正十三年（一五八五）五
月十一日、会津に進攻。
葦名氏に敗れ撤退したの
が岩月町。



蓮沼家は貧乏で驚き母モトが、戻ろうと考えた岩月町上岩崎、田付川の「太用寺橋」

蓮沼門三の生涯

講師 石田明夫

道徳・社会運動の先駆者

喜多方市名誉市民第一号

(昭和52年)

蓮沼門三は、明治15年(一八八二)二月二十二日、母高橋モト、父岩四郎の長男として、真冬、喜多方市山都町大字相川の蟹沢、道路脇で誕生。誕生時、父高橋岩四郎は、関西方面に「熊の胆(胆のう)」を売りに行くものの行方知れずとなる。

三歳、明治18年、母モトは門三を連れ、喜多方市岩月町大沢の蓮沼市太郎と再婚。

十一歳、明治26年、岩月小学校を卒業し、喜多方高等小学校に入る。

十五歳、明治30年、小学校尋常科准教員検定試験に合格、その後、小学校尋常科正教員検定試験に合格。

岩月尋常小学校・入田付分教場(喜多方市岩月町根小屋)、会津坂下の若宮小学校で正教員として教鞭をとった。

十九歳、明治34年、福島師範(現福大)を受けるも二回失敗。

二十一歳、明治36年、東京府師範学校(現・東京学芸大学)に入学し、寄宿舎に入る。寄宿舎は汚く、風紀も良くなかったため。



喜多方市勤労青少年ホーム南側公園内にある「愛汗の碑」

「愛なき人生は
暗黒なり」
「汗なき社会は
墮落なり」

修養団から全国に

広がったもの

- 一、「美化運動」
 - 二、「社会教育運動」
- 大企業も修養団の思想を取り入れ、社員教育に

利用している

- 三、「ラジオ体操」

朝の体操「国民体操」

(松

元稲穂発案)から発展したのが「ラジオ体操」

門三のことは

「天下を動かさんとする者は、自ら動くべし」と環境美化を進める。

二十四歳、明治39年、全職員と学生四百名の出席により「修養団」を発会する。

二十六歳、明治41年、修養団機関紙「向上」第一号を発行。

二十七歳、明治42年、渋沢栄一を訪ね賛同を得る。

六十四歳、昭和21年、天皇・皇后陛下に社会教育の御前進講をする。

六十七歳、昭和33年、働く青少年憩いの家「東京青年ホーム」を開設。

九十六歳、昭和53年、喜多方市に「愛汗の碑」設置。式に出席する。

九十八歳、昭和55年、六月六日、自宅で死去。

「心が変われば態度が変わる。態度が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば運命が変わる。」

「人よ起てよ起ちて汗に帰れ。汗なき社会は墮落なり。共に祈りつつすべて一人の怠ける者もなきまでに。まず、自分自身が変わっていくことです。」

蓮沼門三 (はすぬま もんぞう) 明治時代の思想家

明治15年(1882)2月22日、耶麻郡相川村(喜多方市山都町相川)で生まれる。3歳時、母と共に喜多方市岩月町大沢にある蓮沼家に入る。貧しいものの勉強し、独学で小学校尋常科准教員となる。その後、東京府師範学校(東京学芸大学)に入学した。明治39年(1906)2月11日、在学中に同志とともに社会教育団体「修養団」を創立。一時小学校勤務したが、渋沢栄一などの援助により、わが国青年運動の草分けといわれる修養団の主幹として機関誌「向上」を発刊。「愛と汗」をスローガンとする「白色倫理運動」を展開。戦後は東京青年文化会館の運営に加わる。70余年、日本の社会教育の形成、発展に尽くした。昭和55年(1980)6月6日死去。98歳。喜多方市名誉市民第1号。